

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年 3月 15日
研究・研修課題名	CDR認定の取得
研究・研修組織名(所属)	CDR認定の取得(MEセンター)
研究・研修責任者名(所属)	古谷 昭人(MEセンター)
研究・研修実施者名(所属)	古谷 昭人(MEセンター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(講習会を受講した)
該当者名(所属)	古谷 昭人
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

多岐にわたる CIEDs (植え込み型心臓デバイス) の専門的な知識を有し、医療従事者として高い倫理観を備えた臨床工学技士になるために CDR 認定を取得する。

②方法

IBHRE 試験に合格し CDR 認定を受ける。

CDR 認定を受けるために

- ①日本臨床工学技士会主催の「不整脈治療関連指定講習会 応用編」を受講
- ②日本 CDR センター主催の「業界指定講習」を受講
- ③IBHRE 試験を受験し合格する
- ④CDR 認定を受ける

③成果

今回は日本臨床工学技士会主催の「不整脈治療関連指定講習会 応用編」、日本 CDR センター主催の「業界指定講習」を受講することができた。IBHRE 試験はコロナウイルス蔓延中のため、県外での受験という事もあり断念した。試験までの期間勉学に励んでいたため、臨床現場での知識も身についた。

コロナ禍での立会い制限や遠隔モニタリングの普及に伴い、業者の立ち入りも難しくなり、業者の多大なサポートの下行っていた業務を臨床工学技士がこなすことができている。

また経済面においても、これまで業者立会いしていた業務を臨床工学技士のみで行い、立会い回数を減らすことで立会い料の支出を減らすことができている。

さらに遠隔モニタリング導入数の増加に伴い臨床工学技士の負担も増えるが遠隔モニタリング加算による増収が見込める。

今回の研修により、患者への安全な医療の提供と共に経済面でも病院に貢献できると考える。

今後は身に着けた知識を臨床に生かすと共に、植え込み型心臓デバイスの最低限の知識を身に着けていないととれない CDR の取得を目指し、勉学励む。

